

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500129		
法人名	社会福祉法人 敬愛会		
事業所名	グループホーム しくらめん		
所在地	岐阜県中津川市阿木 2811-1		
自己評価作成日	平成29年11月23日	評価結果市町村受理日	平成30年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JigyosyoCd=2191500129-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成29年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の個々の思いを理解し、穏やかに安心して安全に生活できる環境作りを目指して取り組んでいます。緑の多い環境の中、地域の行事に積極的に参加し季節を楽しんでいます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者は地元出身であり、地域役員も担いながら、ホームと地域との強力なパイプ役となっている。利用者と家族の絆、地域との関わりを大切に、サービスの質の向上につなげている。職員が利用者と共に、他のグループホームへ訪問したり、法人独自で「シクラメン介護福祉フェア」を開催するなど、地域との繋がりの場を拡げている。運営推進会議は、家族が参加しやすい曜日で調整を図ったり、家族会に合わせて、草刈り作業の協力を依頼するなど、より良い関係づくりに努めている。また、利用者の思いに沿った個別外出を増やし、利用者の暮らしを豊かにすることを目標に、職員が明るく前向きに取り組んでいるホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「敬愛の心」「地域に愛され地域と共に」を掲げ、職員全員で取り組んでいる。毎月の会議において理念が目に入るようレジメに乗せるようにした。	理念は明確で分かりやすく、パンフレットにも掲載されている。理念の文言が、毎月の職員会議録のヘッダー部分に表記されており、会議録回覧時に職員が理念を目にし意識することができ、その実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方々から来訪して下さり、手遊びや工作などをさせていただいている。地域の行事(区民運動会や敬老会等)に参加した際には、その方々がお手伝いして下さることも多くなってきた。	管理者が地元出身であり、地域の役員を担っている。ホームと地域とのパイプ役となり、日頃から交流を行っている。利用者が一人で外に出た時も、近隣から連絡があり、無事保護された。法人主催の「介護福祉フェア」が開催され、多くの地域住民の参加が得られており、ホームの認知度も高い。	職員の子どもの地域の子どもの連絡が、放課後や休みの日にホームへ出入りしている。子ども達と利用者との交流環境をつくり、地域の子育て世代とのつながりができる取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の夏祭りにグループホームも参加し、地域の方々と一緒に楽しんでいる。また、地域の認知症サポーター養成講座に講師として参加。恒例になってきた「ラン伴」に今年も参加した		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1度開催し、活動報告や今後の計画、入退所などいろいろなことを報告し意見をいただいている。活動報告には写真を入れて分かりやすくしている。地域行事参加の際には、運営推進委員の方が、手伝ってくださることもある。	前回の取り組みであった、会議の出欠確認表が作成されている。議事録は、参加者からの意見やホームの回答が分かり易く、適切な記録となっている。母体法人の施設長や事務局長の出席もあり、法人組織としてサービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の主催研修会や市内グループホーム部会に参加し、市の担当者からの意見をいただいている。今年度は部会長を務めさせていただいている。また、市の介護相談員を受け入れ、2か月に1度の割合で訪問していただき、利用者の話を聞いていただいている。	管理者は、市のグループホーム部会長を担い、行政と信頼関係の構築に努め、市内のグループホーム全体の質の底上げに尽力している。市主催の行事と法人主催の行事で情報交換をするなど、協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていません。「禁止の対象となる具体的な行為」を理解し進めている。これはと思う行為があれば、話し合いをして、職員全員の周知を図っている。玄関の施錠は日中はしていません。	利用者本位のケアと自立への支援に力を注いでおり、拘束にあたる行為について、職員研修等で学び、拘束をしないケアを実践している。毎日、隣地の特養ホームへ新聞を読みに行く利用者があり、双方の職員で連絡を取り合い、自由な行き来を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時に虐待についての研修をしている。言葉の虐待について常に意識する様に指導している。高齢者虐待防止研修には、毎年参加するようにしている。		

岐阜県 グループホームしくらめん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	計画作成担当者が権利擁護推進員をしており、日常生活自立支援や成年後見制度については折に触れ報告を受け、職員に伝達するように、内部研修をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族が納得されるまで質問に対して受け答えをする様に心掛けている。契約成立後もご家族の不安解消のために、相談に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常にはご家族の来所の際に、報告やご意見を伺っている。また、年に2回(春と秋)に家族会を行事に合わせて開催し、ご意見を伺っている。運営推進会議にも家族代表の方に参加していただいている。	外部評価の家族アンケートは、全家族から回答があり、家族もサービスの質の向上に協力的な姿勢である。面会時や、草刈り等の協力作業の機会に、家族から意見や要望を聴いている。毎月発行のホーム新聞には、行事報告と予定に加え、利用者の普段の様子を掲載している。	家族から出た要望や依頼等が、職員間で伝わっていない時があり、情報の伝達方法を工夫し、これまで培ってきた家族との信頼関係を深められるよう期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティング、毎月1回の職員会議にて法人の運営会議の報告をして周知させている。また部署代表者会議にて、グループホーム職員の意見を伝えている。	管理者は、日々の業務の中で、職員の意見や提案を聞いている。また、会議で検討した内容は、迅速に運営に反映させている。職員間で、課題点や不安を相談しながら協力し合い、仕事のやりがいを共有している。管理者は、職員の適正を見極め、円滑なチームワーク作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の就業体系は個々と相談して決定している。毎月の希望休を考慮して、勤務を決定している。 法人として取り組んでいる「業務評価シート」をグループホームでも行い、職員の意欲の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実際に業務を行う時の指導は毎日のように行っている。ほとんどの職員がキャリアが長くあり、向上心も高いと自負している。定期的に内部研修を行い外部研修については、一人に集中しない様に会議において希望を取るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム部会に参加させていただき、その中で勉強会・交流会を通して、他のグループホームとの交流を図っている。実際に他のグループホームへ訪問し利用者同士の交流も行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面接や入居時にご本人やご家族から情報をいただき、居室担当を設けて担当者がご本人の要望に積極的に答えられるようにし、安心して生活していただける様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と入居前・入居時・入居後とお話を伺うことに努めている。忘れていたことや思い出したこと等相談には親身になり取り組むように努めている。日常生活の変化については随時電話やメールにて報告したり了承を得るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話を聞く段階にて何を必要とされているのかを見極めて、優先順位を考え、順番に解決できるように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で自分に合った仕事を見つけていただく様にしている。また任せっきりせず、必ず一緒に行くことで共に生活している感を持っていただける様にしている。食事も同じものを同じ時間に食べるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方には自由に訪問していただいている。来所時には、ご本人の好きなものなどを差し入れられることも良くある。極力家族との距離が遠くならない様に、折に触れ来所の機会を行事等で作り関係が途絶えないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方、親戚の方などの訪問も自由にしていただいている。今までのお付き合いを極力切らない様に配慮している。個別外出を通じて馴染みの場所などに訪問したりしている。	個別外出の充実を図り、利用者の馴染みの場所や人に会う機会を多くしている。利用者の中には携帯電話を使用している人もあり、家族や友人と自由に話ができて、良好な関係の継続につながっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	極力一人であることの無いように声掛けをし、輪の中に入る様に配慮している。手作りおやつや昼食行事などでは、みんなで協力して作って食べたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族の顔を見た時などに話を聞き相談に応じるようにしている。他施設に転居された場合なども転居先には、生活の状況・身体の状態を情報として知らせるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今年度のスローガンとして「個々の理解」を掲げて取り組んでいる。ご本人やご家族と相談し、アセスメントシートの起こしケアプランに取り入れてサービスの提供に活かしている。ご本人の思いを叶えるための、個別外出にも積極的に取り組むようにしている。	昨年度の目標に掲げた、「思いのカード」を作成するために、利用者と積極的にコミュニケーションを図り、利用者の思いを拾い出す時間を多く設けている。利用者一人ひとりの「思いのカード」が蓄積され、その情報は職員間で共有し、チームケアに活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	共同生活の中で出来る範囲で、ご本人の今までの生活習慣、暮らし方をさせていただける様にしている。過去の担当ケアマネに連絡を取り、サービスの経過などを伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の力を見極めて、出来る事を少しでも継続していけるように努めている。居室に籠りきりにならない様に声掛けを多くしている。少しずつではあるが、自分の仕事が定着してきている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議の時や毎朝のミーティング時、個別カンファレンスの時などを使って話し合いを行い、居室担当が中心になり、ご本人の思いの入った計画を作成している	利用者と家族の思いが、介護の柱となる計画づくりを意識しており、職員は日頃から利用者の思いを把握し、チームケアに努めている。利用者が出来る事を維持できるよう、自立支援を中心に、医療関係者と連携して介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に日々の様子や変化を記録し、変化が見られることなどは、会議・ミーティング・カンファレンスを通して職員が共有できるようにしている。会議の結果はケアプランに反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向を聞き、ご家族と相談しながら個別外出や外泊・お墓参り・携帯電話の所持等柔軟に取り組んでいる。		

岐阜県 グループホームしくらめん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々が毎月訪問して下さっている。工作や歌や踊り等いろいろなボランティアを通してご本人の好きなことを見つけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族の方に、入居前からのかかりつけ医に連れて行っていただいている。少しでも家族・医師とのつながりを切らない様に、主治医・ご家族と連絡を取り、適切に医療が受けられるようにしている。	これまで個々が利用していたかかりつけ医を継続し、医師と連携を図り、利用者と家族が安心して医療を受けられる体制にある。受診前後時には、家族と医療機関とホームで情報共有ができています。緊急時には、母体法人の看護師の協力で迅速な対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時にはご家族に身体の状態を伝えて医師に相談できるようにしている。意思からの伝達も必ず記録に残し共有できるようにしている。現在、看護師の配置はないが、隣接の特養看護師に相談できる体制はできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院されたときは、職員がこまめに病院に行き病院相談員や看護師・医師に状態の確認をし、症状改善後早期の退院をお願いするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は極力グループホームで対応することをお話している。但し医療的処置が継続して行わなければならないときは、特養や医療付き施設への転居もご家族の相談に応じられるようにしている。	地域の中で、利用者一人ひとりが役割を持って暮らせることを基本とし、重度化する前の支援を充実させ、本人が出来る事を維持できるよう努めている。医療的処置が継続状態になった時は、家族が安心して、次の転居先の選択ができるようサポートを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルが作成しており、急変時対応チャートにて対応できるようにしている。消防署で行う救命講習を定期的に受講するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練などで避難経路の確認を行い対策している。近年の避難勧告や避難指示の際には、隣接施設へ非難をすることとしている。	ホームは高台に位置しており、火災の際には、地域消防団の協力が得られるよう、管理者がパイプ役となっている。災害時の重要書類の持ち出しについても意識して取り組み、隣接の特養ホームと連携体制にある。玄関先には利用者用の防災頭巾が用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	思いやりの気持ちをもって対応することで、プライバシーにも配慮できるのではないかと考えている。人それぞれのプライバシーがあることを職員は理解して対応している。現在、入浴時には同性介助を基本としている。	毎月、内部研修を行っており、利用者に対する接し方について職員間で共通認識を持ち、利用者の尊厳を守り、プライバシーの確保に努めている。入浴は同性介助が実践できている。職員は、利用者の不穏を察した時には、寄り添いながら、安心できる言葉かけで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を聞き、ご家族とも相談しながら出来る限りのことはしている。(個別外出)また、「やる」「やらない」の自己決定の場面は細かく聞く様になっている。普段の会話の中から思いを推察するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課はありますが、ご利用者のペースに合わせて過ごしていただいています。決して慌てさせることなく、また無理強いをすることなく、体調に合わせて活動していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度外部より理美容に来ていただいている。昔からの美容院にご家族と一緒に通われている方も見えます。服装も四季に合わせて入れ替えを心掛けている。お化粧の好きな方は毎日お化粧をされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態や量は一人ひとりに合わせて、少しでも食べやすく心掛けている。盛り付けや洗い物もご利用者の状態に合わせて一緒に行うようにしている。食事は職員と同じテーブルで同じものをいただいている。	利用者の状態や好みに合わせ、食事形態や量を配慮し、御飯は粥の人も数名ある。利用者には、準備や片付けを職員と一緒にこなしている。ゆったりとした空間で、自動演奏ピアノから流れてくる音楽を聴きながら、利用者と職員が食卓を囲み、談笑しながらの楽しい食事時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日毎回の食事量・水分摂取量のチェックを行っている。10時・15時には野菜ジュースや乳飲料・発酵飲料も積極的に摂取していただいている。法人の管理栄養士のメニュー作成により栄養確保に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には口腔ケアを実施している。自分でできない方には職員にて行うが、口腔内の嗽だけは自分で行うようにしていただいている。週に1度入れ歯洗浄剤による洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを理解しながら声掛けを行っている。 今年度は、リハビリパンツからのパンツへの移行を進めている。現在3名の方の移行が出来た。	職員は、利用者一人ひとりの排泄リズムをつかみ、タイミングを見計らって排泄を促している。こまめな支援により、リハビリパンツから布パンツに移行し、パッドの取り換えだけで済む利用者が増えている。高齢の利用者が布パンツに移行する事は、職員の喜びとケアへの自信につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況をチェックシートにチェックして運動や水分補給に気をつけている。 医師と相談し、薬の処方をしていただく場合もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回で、夏場7・8・9月は週3回を実施している。入浴を嫌がる場合は、時間をずらしたり、声掛けの職員を変えたりして工夫している。翌日に外出(受診など)ある場合は、臨機応変に対応している。同性介助を基本方針として介助を行っている。	入浴は午後の時間帯で実施し、入浴回数や曜日、好みの湯温等、柔軟に対応している。同性介助を基本として、支援が実践されている。脱衣室には、衣類着脱のための椅子と、その脇には、立ち上がりの為の補助具を設置し、利用者が自分で出来るよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを崩さない様に過ごしていただいている。夜間テレビを見られる方には、他の利用者の迷惑にならない様にイヤホンをつけていただくなどボリュームには気を使っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が利用者の薬の内容が分かるようにファイリングし確認できるようになっている。服薬時には間違えないように職員同士で確認し合い服薬していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯たたみ・食事の準備・片付けなど、それぞれに合った役割を職員と一緒にしていただいている。常に感謝の気持ちをもって見守りながら行うことを指導している。朝のモーニングコーヒー等を楽しみにしている方も見える。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は戸外へ散歩に出掛けたり、季節ごとに花見のドライブに出掛けたり、地域の行事に出掛けたりしている。個別外出も積極的に行い、ご本人の好きな場所や、行きたいところへの外出もしている。	利用者の健康維持と楽しみを目的に、外出の機会は充実している。周辺を散歩したり、地域の行事参加、花見等に出かけている。バスを利用しての日帰り旅行も実施している。担当制を取り入れており、担当職員と一緒に、個別外出を積極的に行っている。	

岐阜県 グループホームしくらめん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が直接お金を管理することはしていません。ただ、預り金として施設で管理していますので、喫茶外出や外食行事の時などは、自分で支払いが出来る方はいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届いたりした場合は、お返事を書く支援をします。ご家族には、暑中見舞いや年賀状を出すお手伝いもしている。携帯電話の持ち込みは、自由にいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはテレビ・ソファを置き、リラックスして過ごせるようにしている。。配置は極力移動せず混乱しない様に心掛けている。ホールでは行事や季節に応じて飾りを皆さんで作って飾ったりして、用のなくなった飾りは希望者の居室に飾ったりしている。	共用空間は広く、開放的である。対面式キッチンには利用者が作業がしやすい低目のカウンターになっている。洗面台が4箇所あり、落ち着いて口腔ケアができる。トイレの照明は昼夜つけたままにし、安全・安心を確保している。事務室とリビングの壁はなく、カウンター越しに職員と利用者が、いつでも会話できる環境にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファでくつろぐ空間を作り、食後の団らんなどで座って一緒にテレビを見たり、お話をしている。畳のスペースも用意してあり時々寝転んだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族と相談させていただき、今まで使っていたものを持ち込んでいただく様にしている。居室の中は、ご本人の気に入るようになっていただいているが、皆さんシンプルにされている。	持ち込みは自由としているが、備え付けのクローゼットがあり、馴染みの家具や物品の持ち込みは少なく、居室空間を広く利用している人が多い。テレビを楽しむ人や携帯電話で家族と話している人もあり、居室で自分の時間を自由に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室からホールへの間には極力物を置かず転倒のリスクを軽減できるようにしている。歩行の状態に合わせ、入居時に今まで使っていた歩行器の持ち込みをされている方もいる。トイレの電気は1年中24時間点灯している。		